

## 平成 29 年度小さな拠点・地域運営組織 関東ブロック研修会 開催概要

### (1) 全体概要

- ・ 日 時：平成 29 年 12 月 15 日（金）13:30～17:00
- ・ 会 場：イオンコンパス東京駅前会議室「Room 3 D」
- ・ 出席者：20 名（主に地方自治体職員、中間支援者等）

### (2) 関東ブロックの特徴（他ブロックとの差別化）

- ・ 住宅地やマンションにおける地域課題解決のニーズが多い。
- ・ 高齢者の生活支援等の課題が懸念される一方で、若者の人口も多い。
- ・ 人口減少・高齢化が、日常生活では実感しづらい。  
 ➡ 「わがごと化」の重要性と方法、若者の巻き込み方を主テーマとした。

### (3) プログラム

時間	タイトル	講師
13:30～13:35 (5分)	開会	
13:35～13:50 (15分)	国の取組説明 「小さな拠点・地域運営組織の形成に関する取組」	吉田 誠（内閣府地方創生推進事務局 参事官）
13:50～14:40 (50分)	基調講演「小さな拠点・地域運営組織の立ち上げの進め方とわがごと化」	斎藤 主税氏（(特) 都岐沙羅パートナーズセンター 理事・事務局長）
14:40～15:15 (30分+ 質疑 5分)	事例発表「地域課題のコミュニティ化と利用者の主体的な関わり方の創出～『ハタラボ』と『すだち』を通して～」	竹内 千寿恵氏（(特) MYstyle@代表理事）
15:15～15:30 (15分)	休憩	
15:30～16:50 (80分)	ワークショップ① 「立ち上げの進め方とわがごと化」に関する質問をしよう ----- ワークショップ② 「小さな拠点：わたしが求めること・わたしがしたいこと」	
16:50～17:00 (10分)	閉会	

## (4) 研修結果

### 1) 国の取組説明 講師：吉田 誠（内閣府地方創生推進事務局 参事官）

資料のとおり

### 2) 基調講演 講師：斎藤 主税氏（(特)都岐沙羅パートナーズセンター 理事・事務局長）

- ・ (特)都岐沙羅パートナーズセンターは新潟県村上地域を活動範囲とする中間支援組織であり、地域まちづくりを18年続けてきた。
- ・ 「ハード（物的資源・施設）→ソフト（仕組み）→ハート（人間性）」で地域づくりを進めていく地域が多々見られる。だが、これではうまくいかない。逆に、「ハート（人間性）→ソフト（仕組み）→ハード（物的資源・施設）」の順で取り組んでいくことが重要。
- ・ 「協働」ブームもあって組織はできていても、住民の意識が「押しつけ」であってはダメであり、行政が言い出せない場合には、中間支援組織の活動していくことが望ましい。
- ・ まず、自治体全体の人口減少や高齢化についてデータを用いて説明し、人口ピラミッドの推移・推計などにより、これらの問題の深刻さを理解いただく。
- ・ さらに、国勢調査小地域集計を使って、大字・〇丁目といった細かい単位で高齢者率と子供のいる世帯の割合を提示し、地域住民の「わがごと化」を進める。
- ・ 住民のニーズを知るために、15歳以上全員向けのアンケートを実施し、年代・性・職業別などできちんと分析し、住民に説明して理解してもらうことが重要で。
- ・ さらに、同じ属性の人たちで集まって、考えていることを話し合う機会を設ける。中間支援者は選択肢を与えるものの、決定はあくまでも地域で行うべきである。
- ・ まずは、やってみることが重要であり、小さな成功体験を徐々に膨らましていく形が望ましい。



### 3) 事例発表 講師：竹内 千寿恵氏（(特)MYstyle@代表理事）

資料のとおり

#### 4) ワークショップ① (質疑応答)

- ・ 4人程度の5班に分かれて、講師に尋ねたいことを議論してまとめ (10分)、発表 (10分)。
- ・ 列挙した質問に、斎藤講師より事例を交えながら回答 (20分)。

##### ■斎藤講師への質問と回答

① 発表されたアンケートの回収率が高い。方法・秘策は？	・ 事前に、「これからやりましょう」と周知しておく。手渡し・直接回収。「やらねば」という意識が重要。
② 若い人がいない、の解決方法は？	・ 意識はある。やり方が問題。今の若い人に合わせたやり方を。「責任を取り除く・ルールを決める」が有効。好きな時に好きな人につながる方法を。その進め方を上の世代にわかっていただくことが重要。
③ 次のステップとして、どうしたらよいらう？	・ 地域内で話し合うこと。自ら考えて自ら実行する。支援者は「選択肢」を提示してあげる。「具体的に話し合おう」など、議論・具体策を深めるよう進行を。(買い物の品目、子供送迎のルート・回数など)
④ 中心地域と周辺地域でギャップがあるまちではどうしたらよいか？	・ 中心地域はあまり困っていない。周辺＝若者が少ない＝声が通りにくい。具体問題にフォーカスする。
⑤ 考える素地を作りたい。行政主導ではなく地域主導にするためには？	・ 第三者に地域の事実を住民に伝えてもらうこと。(行政では、言いにくい・炎上してしまう。) プロデュース力が重要。
⑥ 地域に暮らす職員が引き受けざるを得ず、どう直していけばよいか？	・ 計画の見直し時期がチャンス。地域が主体的に考え、取り組むよう、職員が住民を促していくとよい。
⑦ アンケート後に、子育て世代を集めるしくみは？	・ 同性・同世代が集まる場所に出向く。30分でもいいので時間をもらって説明+もう一回お話を。

#### 5) ワークショップ②「小さな拠点：わたしが求めること・わたしがしたいこと」

- ・ 各自、次頁の表の4色の付箋に分けて意見やアイデアを記入し、左隣にその説明をして渡す(例えば「小さな拠点・地域運営組織づくり」を進める上で、自分がその助けになりたいことを黄色の付箋に記入し、説明)(趣旨説明3分、記入5分、発表10分)。
- ・ もらった人はその付箋を、模造紙で作成したマトリクスに効果の大小及び取組のしやすさを評価(個人的感想でよい)して貼り付けた(10分)。
- ・ 斎藤講師より、参加者の評価について講評(10分)。まとめ、振り返り(2分)。



(ねらい)

講演を受けて、「小さな拠点・地域運営組織(地域住民)として」もしくは「小さな拠点・地域運営組織づくりを支援する者として」の2つの視点から、自ら取り組みたいこと、必要とすることについて検討・議論し合うことで、研修内容の「わがごと化」を図るとともに、その方法を習得して各地で広めてもらうことを期待した。

	小さな拠点として、 地域運営組織として、	「小さな拠点・地域運営組織づくり」を進める上で、
自分が、 わたし達で、	やりたい	助けたい 助けねばならない
誰かに、	やってほしい	助けてほしい



